

全日本語りネットワーク

2008. 1. 25 発行

〒376-0045 群馬県桐生市末広町 5-19
桐生市市民活動推進センター 内
(Fax) 0277-47-4067 (振替)00130-2-114808
(E-mail) welcome@japankatarinet.jp
(HP) http://japankatarinet.jp/

ニュース

全日本語りの祭り in 遠野から — メッセージ —

遠野市ふるさと交流課

交流係長 石田久男

「遠野物語の地」・・・「遠野」

日本民俗学の創始者として知られる柳田國男の著作「遠野物語」は、柳田民俗学の出発点とも言われています。

遠野は、北上高地の中央部に位置し、早池峰山の麓に広がる遠野盆地にあります。

農村の夜なべ仕事の傍ら、寒さをしのぐ囲炉裏を囲み、親から子へと語り継がれてきた昔話

と伝説。

そこに紡がれた物語は、今や海の向こうまでも発信されています。

そして、北国の小さな盆地—遠野を訪れた時、物語を彷彿させる懐かしい風景と素朴で温かな心が、人々



をすっぽりと優しく包み込んでくれるのです。

「宮澤賢治が夢馳せた地」・・・「遠野」

宮澤賢治の作品には、頻りに鉄道が登場します。かつて、花巻から遠野にかけて走った岩手軽便鉄道をモチーフに綴られた『銀河鉄道の夜』をはじめ、『春と修羅』、『シグナルとシグナレス』など、数々の童話や詩の中に込められた夢。満天の星空に浮かび上がる「めがね橋」の彼方には、賢治の願った幸せの「イーハトーブ」が広がっているかのようです。

「永遠の日本のふるさと遠野」を標榜して

現在、遠野市は、日本の原風景を彷彿させる農村景観や美しい自然景観、伝承されてきた数多くの昔話など、豊かな観光資源を生かしつつ、「もてなし」の心の伝わる人づくりに取り組みながら、交流人口200万人の達成と「永遠の日本のふるさと遠野」の実現を目指しています。

「2008 全日本語りの祭り IN 遠野」・・・

今もなお息づく民話と語りの里で、皆様をお待ちしています。